

市川自然博物館

6・7月号

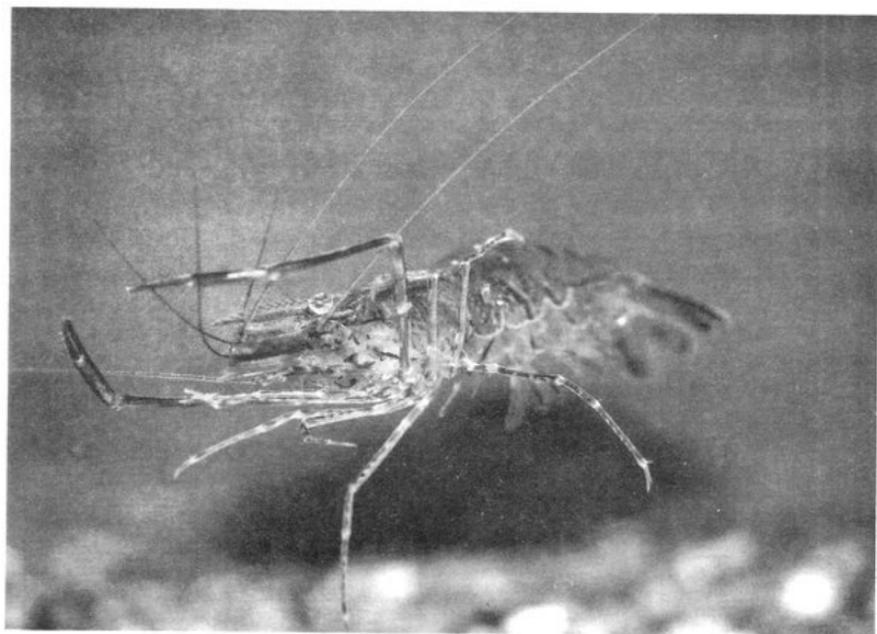
(通巻第26号)

だより

やさしい
分類学

2

エビ・カニ・
ヤドカリ類



▲アーミーナイフのような額角をもつテナガエビ

頭付のエビを食べる時に



注目してほしいのは額角

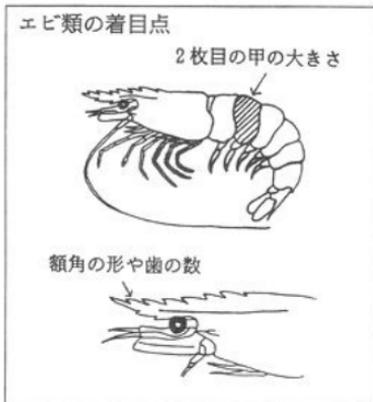
エビ類は、2番目の甲と額角に着目する

イセエビ類やザリガニ類は、全体の姿が特徴的なので一目でそれとわかります。イセエビ類は太く立派な触角を持ち、ザリガニ類は左右に大きなはさみを持っています。

他のエビ類の場合は、まず腹部に6枚ある甲のうち、前から2枚目の形に注目します。ここが、他に比べ目立って幅広いのがコエビ類で、同じなのがクルマエビ類です。このどちらに属するのは、図鑑を引くときの大きな手がかりになります。

次に、頭部から伸びる額角に注目します。額角の長さや伸びる方向、額角の上縁と下縁にある歯の位置と数などは重要

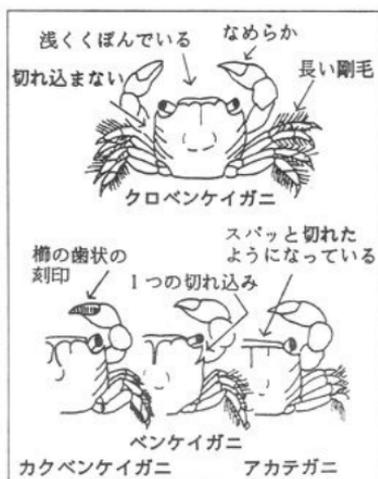
です。額角の特徴は、どの図鑑においても、種類を見分けるポイントとして細かく解説されています。



<p>ウシエビやクマエビ</p> <p>上に7~8歯 下に2~3歯 (クルマエビは下1歯)</p> <p>大きくない</p> <p>「ブラックタイガー」「タイガー」などの名で売られている。</p>	<p>ホッコクアカエビ</p> <p>上に12~19歯 下に8~9歯</p> <p>大きい とげ</p> <p>「甘エビ」として普通に売られているのはこの種類。</p>	<p>イセエビ</p> <p>太く立派な触角が特徴。額角はない。歩行生活をするので、安定のいい体型。</p>
<p>ボタンエビやトヤマエビ</p> <p>上に17~20歯 下に7~10歯</p> <p>大きい</p> <p>「甘エビ」の名で売られる大型のものはこれらの種類。</p>	<p>テナガエビ</p> <p>上に10~17歯 下に3~5歯</p> <p>大きい</p> <p>から揚げにする「川えび」はおもにこの種類。</p>	<p>アメリカザリガニ</p> <p>大きなはさみが特徴。額角は小さく長三角形で、先端に小さな歯がある。</p>

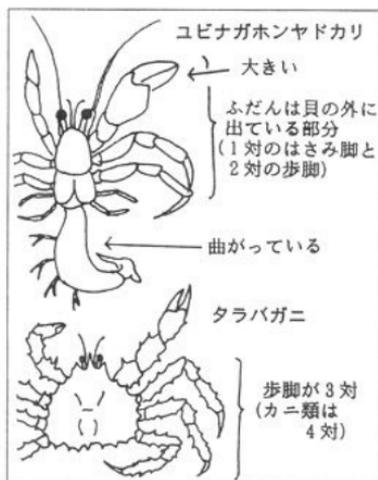
カニ類は、甲の全体に着目する

カニ類は、種類によって、全体の大きさや形、色などが特徴的なので、図鑑の絵と実物を合わせていだけで、かなり種類を知ることができます。しかし、その一方で、近縁種を区別する時のポイントがあれこれあって、似た外観のものの判別には手こずります。甲の全体の形や、甲の縁にある歯や溝、眼の間の部分（額）の長さや歯の有無、眼柄の長さ、甲やはさみに粒や刻み模様があるかなどが、ポイントになります。



ヤドカリ類は、とりあえず左右のはさみを

ヤドカリ類には、ヤドカリ上科とホンヤドカリ上科という大きな2つのグループがあります。はさみ脚の大きさが左右同じか、左が大きいのがヤドカリ上科で、右が大きいのがホンヤドカリ上科なので、まず、この点に着目します。なお、ヤドカリ類の中には、一般の印象とは異なり貝を背負っていないものもあり、カニ缶で知られるトラバガニは、実はホンヤドカリ上科に属するヤドカリの一種です。



図鑑を見る場合に...

甲殻類の図鑑はあまり多くありません。しかし、甲殻類という分野のマイナーさと、図鑑を作るのに要する労力を考えると、あまり贅沢もいえないでしょう。その中で、とりあえず一般の方々が、いくつかの形態的な特徴に基づいて甲殻類を見分ける場合に役立つ図鑑として、『原色 甲殻類検索図鑑』(武田正倫著 北

隆館)があります。この図鑑の検索表は、甲殻類の形態を学ぶのに適しています。また、食用種や、ワレカラ類・ミジンコ類などが載っているのも魅力です。また、甲殻類という分類群の全体像については『動物たちの地球 68~70』(朝日新聞社)に細かく解説されています。



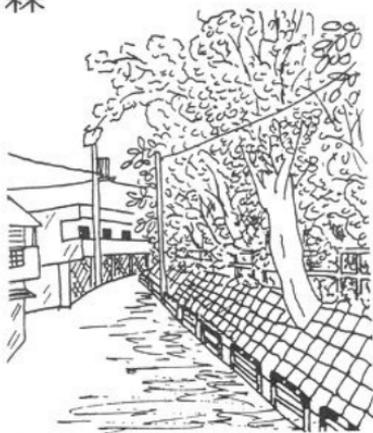
街かど自然探訪

おじゃまします!

北方・子の神社の斜面林

市内の地形を特徴づける、北の台地と南の低地、この境界部である台地の縁には昔から斜面林が発達していました。現在も数は少なくなったものの、市内各地で斜面林が見られ、子の神社の斜面林もそうしたひとつで、市内に4つある緑地保全地区のひとつに指定されています。

ケヤキ、スダジイ、タブノキ、アカガシなどの大木があり、季節に応じて草木が花を咲かせます。宅地開発が進んだ一帯なので、ポツンポツンと残っている、こういう林が貴重に感じられます。



行徳野鳥観察舎

夏羽・冬羽

だより

ユリカモメたちがきれいな夏羽になった。ずきんをすっぽりかぶったような黒い頭で、目のまわりだけダッコちゃん人形のように白い。鮮やかな紅色だった足とくちばしも暗紅色になった。結婚をひかえてのおしゃれだが、人間がおしろいや口紅をぬるのは彩りが逆なのがおもしろい。黄色だったダイサギのくちばしも黒く変わり、背中にはレースのようなみの毛が美しくのびている。

繁殖期を前に衣替えをする鳥たちのなかでも、ダイゼンの変化はめざましい。冬羽は地味な灰褐色で、干潟の泥に似た作業衣姿だが、4月末から5月にかけて、



顔から腹が漆黒、背は純白地に黒い斑紋という正装をまとう。「えっ、これ同じ種類なんですか？」驚いてもらうのがこの季節の私の楽しみのひとつ。

(行徳野鳥観察舎 0473-97-9046)

いちかわの 野生生物

カワセミ

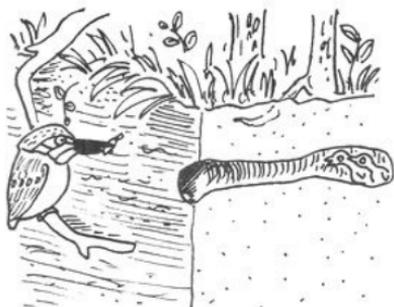
(*Alcedo atthis*)

小川や池などの水辺にすむカワセミは、全体的に金属光沢のある緑色、背から尾にかけてはコバルト色で、胸から腹にかけては橙色という美しい姿が印象的な鳥です。

まっすぐで大きな嘴、大きな頭、短い尾といった体は、水中にダイビングし、魚を捕らえるために適した体型といえます。

繁殖のための巣は、土の崖に径6~9センチ、深さ50~100センチの横穴を掘ってつくるとい

う特殊なもので、近年、その生活場所は大変限られてきています。市川市内では、大町自然観察園内で繁殖しているほか、行徳野鳥保護区内に掘られた池と土手で繁殖した例があります。また、中国分のじゅん菜池緑地や国府台の江戸川土手、北方町の大柏川流域、柏井町の青少年の森周辺の水辺などでも観察されています。こうした地域では、水質汚染に強いモツゴなどの餌になる小魚がまだ多いことや、水辺近くにカワセミが営巣できそうな土の崖があり、繁殖の可能性も残されています。



むかしの市川 ~ その21 ~

光る虫発見!

昭和24年、市川一中の教師をしていた頃の宿直の夜でした。日頃、生物クラブで活躍している3年生のT君が「先生、ホタル以外に光る虫はいませんよね、僕光る虫を発見したんです」と、小さな虫を持ってやってきました。見ると、長さ1.2cmほど、黒くて細い虫です。電燈を消してみると、なるほど、青白く、ホタルのように光るのです。里見公園近くの木の葉の上にいたというのです。

「ホタルの幼虫なら水の中にいるはずだ、木の葉の上にいるということは、ホタルではない、これは新しい発見だ」ということになり、翌日、その虫を持って



生物クラブの生徒数人と、国立科学博物館に昆虫学者・新村太郎先生を訪ねました。先生は、その虫を見るなり、「ああこれはクロマドボタルの幼虫ですよ、河口湖あたりへ行くと見られますよ……」

T君をはじめ生物クラブ一同は、いっぺんに気がぬけてしまいました。しかし国府台にクロマドボタルがいた、クロマドボタルの生態を知ることができた、はじめて昆虫学者と接することができたことなどに、大きな感動を得たのでした。

(博物館指導員 大野景徳記)

わたしの
観察
 ノート
 No. 8

◆大町自然観察園より

・観察園のトンボの初認記録

4/8 シヤトボ、4/13 アヲイトボ

4/14 シカトボ、5/2 アモンイトボ

阿部則雄さん（船橋市在住）

・オオルリが来ました（4/19）

楠窪のり子さん（鎌ヶ谷市在住）

・カワセミの交尾・求愛給餌（4/20）

・エナガの巣立ち（4/20）

以上 花井政章・勢津子さん

（鎌ヶ谷市在住）

・センダイムシクイが来ました（5/7）

・ヤマガラの巣立ち（5/7）

以上 須藤 治（自然博物館）

◆ ????より

・イチリンソウが咲きました（4/16）

金子謙一（自然博物館）

◆南大野より

・ジュウイチが来ました（4/24）

◆奉免町より

・オオヨシキリが来ました（5/12）

以上 高畑道由さん（南大野在住）

◆柏井雑木林より

・スマレ類が花を咲かせました

4/7 タチバナミシ・マルバナミシ、4/8 ニオイタチバナ

ミシ、4/14 ツバミシ、4/15 アカネミシ

・ホソミオツネントンボの群れ（4/15）

・オオルリが来ました（4/27）

◆堀之内貝塚公園より

・イヌノフグリが咲きました（5/6）

以上 金子謙一

◆国府台2丁目より

・ヒレンジャクが現れました（3/27）

村上暢一さん（真間在住）

◆里見公園付近より

・トラツグミが鳴きました（3/29）

・ウグイスがさえずりました（4/22）

・アオバズクが鳴きました（5/5）

以上 秋元久枝さん（国府台在住）

・コサメビタキが来ました（5/8）

村上暢一さん

◆坂川河口より

・ノウルシ、カントウタンボボが咲き

ました（4/5）

金子謙一

◆じゅん菜池公園より

・メボソムシクイがさえずっていました

（5/8）

村上暢一さん

◆県道市川松戸線付近より

・カントウタンボボの群落が花をつけ

ました（4/5）

金子謙一

◆菅野より

・ツマキチョウが飛びました（4/8）

・ウグイスがさえずりました（4/9）

以上 山崎剛介さん（菅野在住）

◆江戸川放水路より

・例年どおり、シギ・チドリが渡って

きました（コフドリ・ダイフリ・ムナカ・キョウジョ

シギ・ホウクジ など）（4/25）

手塚真理（自然博物館）

やってみよう!
みてみよう!

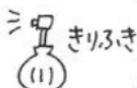
くもの巣
をみよう
の券



家のまわりで・公園で。
くもの巣さがしをしてみよう!



もちもの



きりふきで
水をかけると
見やすいよ。

ノートにくもの住所
3つをつくろう!

あび図
かんで
しなよう



いろいろなくものすを見つけよう!



☆☆☆☆ 自然博物館の行事案内 ☆☆☆☆
*夏休み行事

「写真で見る市川の自然」 開催!!

自然博物館の学芸員が長年撮りためた約 7,000点の中から厳選した写真で、市川市内の自然の様子を紹介します。

会期 7月20日(火)～9月23日(木・秋分の日)

会場 自然博物館 特別展示室

- *自然観察会 7月18日(日)「湿地の植物」
8月8日(日)「トンボの観察」
- *自然と遊ぼう 7月10日(土)
「しゃくとり虫になろうー大ききあてクイズ」
- *ホテル観察会 7月27日(火)・30日(金)
8月3日(火)・6日(金)
- *標本のつくり方教室 7月27日(火)・28日(水)・29日(木)
- *名前をしらべる会 8月20日(金)
21日(土)
22日(日)
24日(火)

6月9日は平常どおり
閉館いたします。

市立市川自然博物館だより
第5巻 3号 (通巻第26号)
発行日/ 平成5年6月1日(偶数月発行)
編集・発行/ 市立市川自然博物館
〒272 千葉県市川市大町 284番地
☎ 0473(39)0477